

令和 7 年度自己評価と学校関係者評価

— 当園知的教材研究、指導講師（平田匡邦先生）による評価

幼稚園教育課程と保育指針の内容を確認し、教職員の共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、本園がこれから担う役割について検討する。

重点項目	具体的な目標と取り組み	自己評価と課題	平田先生
幼稚園教育要領、保育指針を理解し、教育課程、保育課程の編成と実施	【健康管理】 ＜目標＞ ・子どもの体調など視診などで常に把握する。 ・お外遊び後は、しっかり汗を拭き、手洗いうがいと言われなくてもできるようにする。 ・水分補給をしっかりする。 ＜取り組み＞ ・ふだんから体調が悪くなったら、担任に声を掛けるよう言って聞かせる。 ・トイレから戻ってきた際に身だしなみが乱れていないかチェックする。 ・水分補給の時間をとり、全員お茶を飲んでいるか確認する。 ・外遊びの際には水筒を持って出て、のどが渴いたらいつでも飲むように声を掛けている。 【人間関係】 ＜目標＞ ・遊びの中でいろんなお友だちに声を掛け、仲良く遊ぶ。 ・友だち同士で誘い合って、積極的に活動していく。 ・お外遊びや、トイレで違うクラス、下の学年のお友だちと関わるがあったら、譲り合ったり、仲良く接する。 ＜取り組み＞ ・帰りの気持ちカードの発表で、自分の気持ちや、お友だちとあったことなど、みんなの前で伝える。 ・お友だちとのけんかやトラブルも成長の証と捉え、嫌な思いをしたときの行動の仕方を子どもと一緒に考え、修正していく。（噛んだり、叩いたり、つねったり、蹴ったりといった行動を一旦自分で抑制することを学ぶ）	【健康管理 評価 A】 ・外遊び、排泄後、食事前の手洗い、うがいなどの徹底をした。 ・水筒のお茶をしっかり飲み、保育中の合間でも、水量のチェックをし、飲む声掛けをしていた。食事中は、飲む量が分かるように、あえてコップにお茶を入れて飲むようにした。年齢の小さい子どもは、飲む量の少ない場合が多々ある。 ・咳が出ている子には、マスクをしてもらうようにした。 【人間関係 評価 B】 お友だちとの関わりの中で、自分の思うようにいかなかったり、嫌なことを言われたりされたりしたときに手が出ることもあるが、そのような場合は、保育士が間に入ってお互いに話し合い、気持ちを収め、手を出す前に気持ちを言葉で言えるように、保育士が代弁しながら、言って聞かせた。繰り返し起こる場合でも頭ごなしに叱るのではなく、根気よく言って聞かせるようにした。 子どもの年齢が上がってくると、保育士の見ていない隙に起こることがあり、直接の現場を捉えることが難しい場面もある。事後報告が多いが、けんかをした場合は、必ず保育士に言うように子どもたちに日頃から声を掛けている。	【健康管理】 毎日の健康管理、ご苦労様です。手洗い・うがいの徹底に加えて、水分補給を「声かけ」だけでなく「水筒の残量チェック」「コップに入れて見える化する」という具体的な工夫まで行っている点がとても実践的だと感じます。特に、小さい子どもは水筒からだと飲んだ量が分かりにくいいため、コップに入れる工夫は、子ども自身も保育士も「どれだけ飲めたか」を把握しやすく、熱中症対策として理にかなっています。マスクが苦手な年齢の子には、こまめな換気や席の配慮など別の工夫も併用しましょう。 【人間関係】 子どもへの接し方としては、加害・被害を決めつけず、双方の気持ちを丁寧に聞き取ること、そして「手が出た理由」に共感しつつも行動の善悪は伝えるという二段階の関わりを根気強く続けることが大切だと感じます。 ①遊びの合間に「最近楽しい?」「嫌な気持ちになったことある?」など雑談形式で聞き取る機会を意図的に作る ②特定の子が孤立していないか、遊びの輪の変化を記録・共有する

	【環境】 ・安全・清潔・整理整頓・遊びやすい環境づくり・取り組みやすい用具や教具の配置 ＜取り組み＞ ・門、通用口からの子どもや保護者の通り道を、日々清潔にしておく。 ・園庭や遊具も遊び終わったら子どもたちと一緒に片付け、保育士は掃除、安全確認を徹底する。 ・子どもたちは、自分のロッカーや持ち物をその都度確認し、整理整頓を維持できるようにする。 ・子どもの手が届く所は、徹底的にきれいにし、清潔に保つ。 ・くつやトイレスリッパは、きちんと揃えて下駄箱に置く。左右を確認し、かかとは踏まないようにする。 ・保育の合間に、窓やドアを開けて、空気の入替えをする。 ・室内遊びでは、机、いす、ロッカーなどに注意して、広いスペースでおもちゃを広げる。 ・机、いすの移動には、絶対子どもに当たらないよう注意する。 【言葉】 ・子どもに対しての普段の言葉遣いを見直す ・子どもたちの言葉遣いを見直す ・注意をするときは、できるだけ肯定的な言葉遣いをする ＜取り組み＞ ・まず子どもに対して何かを伝えるときは、要点が分かるように伝える。個々の理解度を把握しながら、伝わっていないようなら、伝え方、速さなどを変えて、再度ゆっくり伝える。 ・危ない状況を注意する場合も、ストレートに否定的ではなく、肯定的な言い方ができないか考えて見る。 ・職員間でも、気になる言動はその場で伝えあい、すぐに認め合って直すように心がける。 【表現】 ・制作・お歌や楽器演奏・劇あそび、ダンスなどの活動で、素直に自分の思いを表現する ・これらの活動を楽しむ。	【環境 評価 A】 ・毎日の清掃・整理整頓・安全確認はできた。 ・年長になれば、机やいすを自分たちで運び出したりしながら、危険な行為や注意点を実際に理解することができ、みんなで達成感も感じられた。 ・お部屋での活動の種類によって、机やいすの置き方や片付け方を工夫する必要がある。 【言葉 評価 B】 ・身近な大人の言葉遣いが子どもたちの言葉遣いに大きな影響を与えると認識し、まず大人が言葉遣い、言い方を見直したい。 ・つい感情的になってストレートに言ってしまうこともある点は改善したい。まず感情を一旦抑えることが大切と考える。 ・気を付ける習慣がつくよう、根気よく改善していく。 【表現 評価 A】 ・お部屋の壁面制作も、色使いも考え、子どもたちの作ったものが映えるようにレイアウトしていった。また、それらを見ることで子どもたちが喜んでくれ	③先生に言うことを「言いつけ」ではなく「教えてくれてありがとう」という声かけで、報告しやすい空気を日常的につくる ④保育士間で「気になる子」の情報をこまめに共有し死角を減らす このような視点も大切にしてください。 【環境】 安全・清潔・整理整頓が「保育士がやる」だけでなく「子どもが自分でできる」形に落とし込まれている点が良いと感じます。特に靴や上履きの左右確認・かかとの習慣づけは、整理整頓と同時に将来の生活習慣にもつながります。 ① 危険箇所(机の角、扉の開閉部分)にクッション材や表示をつける ② 玩具は写真ラベルで「どこに何を戻すか」を視覚化する、ことが有効です。 整理整頓は習慣化がカギなので、同じ動線・同じ声かけを繰り返すことが定着につながると思います。 【言葉】 とても実践的で、すぐ現場で使える目標だと感じます。 追加の対策としては、①NG ワードではなく「OK ワード集」を職員間で作る ②否定形を使わざるを得ない緊急時(命に関わる危険)は例外として区別しておく ③子ども自身にも「言い方を変えてみよう」と促し、友だち同士のトラブルの仲裁に活かす ④月 1 回程度、実際にあった言い換え例を職員間で共有し、成功パターンを蓄積する などが有効だと思います。
--	---	---	---

	<取り組み> ・子ども同士の会話に耳を傾け、子どもの素直な気持ちをキャッチし、受け止める。 ・制作をする上でも、いろんな表現の仕方があることを伝え、正解が一つではないことを伝える。 【カリキュラム・行事】 ・個人差を受け入れ、全体的に達成度を上げる。 ・保育参観では、ゆったり見てもらえるように、少人数で1時間取る。 ・年度末には各学年の1年の取り組みの成果を観てもらえるよう、音楽会や英語発表、劇発表を行う。 <取り組み> ・個人差を考慮して、補助的なものを用意したり、さらに目標を上げた課題をしたり、それぞれの子どもに合った学びができるよう工夫する。 ・空いた時間に、自発的にどんどんワークなどできるよう、それらを取り出し易くする。 ・楽器なども廊下に置き、いつでもだれでも使うことができるようにする。 ・広い廊下を有効活用して、マットや鉄棒も置いている。毎日活用する。 【食育】 ・生き物を大切にし、愛着を持つ。 <取り組み> ・ベランダでプランター菜園を行い、日々の水やりをしながら、成長を観察する。 ・実った野菜を持ち帰る。 【特別支援】 ・支援の必要な子どもも園生活を楽しみ、みんなと同じ活動をする ・保護者の子育ての不安や鬱屈などを精神面での苦慮を軽減する <取り組み> ・支援の必要な子どもに対して、活動そのものを変えるのではなく「参加の仕方」を工夫する(役割	るよう、飾り付けをした。 ・子どもたちから自然に出た言葉やアイデアをみんなで共有することで、さらなる発展が見られ、子どもたちの刺激になった。 ・新しいアイデアを考案し、個人作品のみならダイナミックな制作も行いたい。 【カリキュラム・行事 評価A】 ・隙間時間を利用したり、廊下を利用したり、それぞれクラスで工夫が感じられ、子どもたちが楽しそうに取り組んでいた。 ・「できなかったことができるようになった」と子ども一人一人の成長を子ども自身が喜んでいて。保育士も一緒に喜びを共有することができた。 ・参観では、分散して、1クラス1回5～10人ぐらいで、ゆったり観てもらった。 ・保護者・園双方の思いを盛り込み、子どもたちの力が発揮できるよう、プログラムを検討した。 【食育 評価A】 ・野菜を育てる過程で成長する喜びを感じた。 ・育てている野菜について図鑑を広げて詳しく調べてみたり、制作をしたり、関心を高めた。 ・給食時に、育てている野菜と同じ物が出た時にはみんなで喜び、じっくり見たり食したりすることを楽しんだ。 ・育てている野菜について、みんなで話したりできたことを喜んだ。 【特別支援 評価A】 ・カウンセラーや子育て支援保育士と保護者との懇談も行い、家での様子、園での様子を共有しながら、子どものことを理解追究していった。 ・子育て支援保育士がお迎えの際に、こまめに声を掛け、軽く話を聞いていた。 ・仕事をしながら子育てをする家庭が増えており、一人で悩んで疲弊している保護者もかなりおられることを知り、さまざまな支援が必要だと感じた。	また職員間の指摘は、良かれと思ってでも萎縮を生みやすいため、「指摘」ではなく「気づきの共有」という言葉を使うだけでも心理的ハードルが下がります。 継続のコツは「その場ですぐ」を徹底することだと感じます。 【表現】 「正解は一つではない」という姿勢を軸に、会話・制作・壁面レイアウトまで一貫して子どもの表現を尊重されている点が素晴らしいと感じます。特に、子どもの言葉やアイデアをみんなで共有し発展させる流れは、表現活動を「個人のもの」から「クラスみんなの財産」に変える工夫だと思います。 さらなる課題としては、 ①得意な子の意見が目立ちやすいため、表現が苦手・控えめな子の小さな発信も拾う工夫(聞きに行つてあげるなど) ②「見せる制作」だけでなく、完成しない・プロセス自体を楽しむ活動も取り入れるバランス、が挙げられます。 ダイナミックな共同制作のアイデアとしては、大きな模造紙やダンボールに全員で色を重ねていく「共同壁画」、廃材を使った「街づくり」制作、みんなの声を録音して劇に取り入れる、なども面白いと思います。子ども同士の異なる表現を「比べる」のではなく「混ざり合う」体験にできると、さらに豊かになりそうです。 【特別支援】 「特別な支援」を「みんなと同じ活動への参加」という視点で捉えている点がとても大切だと感じます。
--	---	--	--

	を分ける、道具を変える、時間を短くするなど) ・支援が必要な子には、担当者を決め、毎日の様子を記録する。支援する事柄を全職員で共有する ・カウンセラーや子育て支援保育士と保護者との懇談を行い、連携を取る。 【預かり保育 放課後保育】 ・教育時間の担任と預かり保育の担当保育士との連携を徹底する ・クラスや学年を超えた子ども同士の関わり方を観察し、全職員に報告する ・保育内容の充実をはかる。 ＜取り組み＞ ・預かり担当の先生と担任との会議を設け、子どもたちの様子を伝えあう。	・少しでも、保護者の子育てなどの悩みを聞いてあげる、他の人の話が聞ける場をつくり、リフレッシュしてもらった。 【預かり保育 放課後保育 評価B】 ・預かり保育中の活動報告を、玄関に写真掲示し保護者にも見てもらった。子どもたちがそれを見て保護者に伝える光景が見られた。 ・アットホームな雰囲気の中で、自由に遊ぶ喜びを大切にしながら、遊びの内容をさらに発展させたい。	分離ではなく、活動の中でどう参加できるかを考える姿勢は、周りの子どもたちにとっても自然なインクルーシブ教育の機会になります。 また、保護者の精神的な負担軽減まで目標に含めている点は、子どもだけでなく家庭全体を支える視点として重要です。 ① 保護者への声かけは「困りごと」を聞くだけでなく、「今日できたこと」を具体的に伝え、小さな成功体験を共有する。 ② 必要に応じて療育機関・専門機関と連携し、園だけで抱え込まない体制を作る ③ 他の子どもたちにも自然な形で「みんな得意なことが違う」と伝え、特別視せず受け入れる雰囲気を作る 【預かり保育 放課後保育】 担任と預かり保育担当との連携、そして異年齢の関わりを「全職員で報告・共有する」体制づくりは、子どもの様子を多角的に把握するうえでとても効果的だと感じます。また、写真掲示によって子どもが自分から保護者に園での様子を話す、という循環が生まれている点は、まさに理想的な家庭との連携の形だと思います。 自由に遊び喜びを得るために ① 子どもたちの意見を集めて「やりたいことリスト」を作り、実現できるものから取り入れる ② 誰かが始めた遊びを保育士が広げすぎず、子どもたち同士でルールや役割を決めさせる ③ 一度きりで終わらせず、「昨日の続きやる?」と聞き、同じ制作物やごっこ遊びを数日～数週間かけて発展させる 保育士が「テーマ」を決めるのでは
--	---	---	--

			なく「材料と時間」だけ用意し、内容は子どもに委ねることです。それにより、遊びが子どもたち自身の物語として自然に発展しやすくなります。
保育の在り方、子どもへの対応の仕方の改善	【挨拶】 ・朝の挨拶を自分から進んでする。 ・送って来てもらった保護者に、元気よく「いってきます」と挨拶する。 ・園に来てすぐに会える先生やお友だちに、自分から挨拶をする。 <取り組み> ・登降園時間に副園長・警備員が子どもたちと保護者に笑顔で元気に挨拶をする。 ・職員は、朝玄関で会える子どもたちと保護者に挨拶をする。 ・なかなか玄関で保護者と離れず、泣いているようなら無理に話さず、納得させながら部屋へと誘導する。それでも無理なら、保護者に入口まで来てもらい、さっと引き受ける。 【身の回りの管理・準備・片付け・身だしなみ】 ・片付けや活動の準備を速やかに行う ・トイレに行った後は、シャツを入れて身だしなみを整える。 ・子どもの体調管理を徹底する。 ・排泄を自分で行える。 ・縦割り保育をする時間は、小さな子に優しく接したり、困っているお友だちに、声かけをする。 <取り組み> ・子どものいつもの表情、状況に不振を感じたら、子どもにしんどい所、痛い所などないか聞く。そして、すぐに担任に伝え共有しておく。 ・保育中でも、しんどくなったら自分から先生に言うように普段から声をかける。 ・おもちゃの片付けは、皆でできるよう、先生も一緒になってしていく。 ・何か問題が起こった時は、両者にしっかり話を聞くことと、その後はクラス全員でも考え、話し合いの場を作る。 ・暑い時期は、毎日気温や防災速報のチェックを行い、室内外での保育をする上での環境に注意す	【挨拶 評価 B】 ・学年が上がるにつれ、挨拶を返せる子どもが増えていくが、自分から挨拶ができる子どもはまだ少ない。 ・どの先生でも挨拶を返せるようになってほしいもの。 ・自分のクラスに入って、担任の先生やお友だちに自分から挨拶ができる子どもも増えていくことを願う。 ・先生からしっかり子どもの顔を見て挨拶をする。保護者にも元気に明るく挨拶し、保護者同士にも挨拶の輪が広がることを願った。 ・普段から自発的に挨拶することで、来園者の方々にも挨拶できるよう促していった。 【身の回りの管理や準備、片付け、身だしなみ 評価 A】 ・朝の身支度を自分なりにじっくり取り組み、徐々にさっさとできるよう声掛けしてがんばってもらった。 ・用品の準備、片付けは、お友達と一緒に丁寧に行っていた。 ・帰り際には、シャツやえり、靴下など身だしなみをきちんと整えた。 ・トイレに行きたいこと、体調面やいつもと違う違和感を言えない子どももいることを念頭に置き、その傾向のある子どもを把握し、声を掛けることも必要と感じた。	【挨拶】 個々の性格や家庭での習慣にも大きく影響されるので、難しいところですね。 「おはよう」と言えたらハンコをもらうなど「あいさつスタンプ帳」のようなものを作ってはどうか。 【身の回りの管理・準備・片付け・身だしなみ】 「できるようになる手前の一步」を保育士と一緒に埋めていく視点が大切だと感じます。 ①言葉より先に「表情・仕草・食欲・動きの量」など非言語のサインを保育士側が観察するチェックの視点を持つ(いつもと違う静かさ、触られるのを嫌がる、など) ②「痛い?しんどい?」という聞き方だけでなく、「なんとなく」「ちょっと」でも言っていていいと日頃から伝える(「大丈夫かどうかわからなくてもいいから教えてね」) ③絵カードや「元気顔・しんどい顔」のイラストを使い、言葉が未熟な子でも指差しで伝えられる手段を用意する 【教育保育の在り方】 「子ども会議」を取り入れて、子ども自身に考えさせる機会を作っている点がとても良いと感じます。個人差を「比較」ではなく「その子なりの進歩」で評価する姿勢も、一人ひとりを大切に保育につながっています。 評価の視点として加えられそうな

	る。 ・おむつがとれたら、排泄の際は、自分で便を拭いたりできるよう、一緒に練習していき、自信に繋げていく。また、ご家庭の協力も得るようにしていく。 【教育保育の在り方・環境や子どもへの接し方】 ・子どもの興味関心・思いを捉え、活動に生かす。 ・いろいろな活動においての、子どもの得意不得意個人差を把握し、各自に応じた目標を立てる。 ＜取り組み＞ ・カリキュラム上では、個人差もあるので、少しでも進歩したら、それをおおいに褒める。 ・子どもと一緒に活動の内容を考えたり、さまざまな選択肢を与えたり、子どもの思いや意見を取り入れる。 ・子ども会議を取り入れ、いろいろなテーマで子どもが考えていることを聞く。	【教育保育の在り方 評価 A】 ・朝の自由遊びの時に子どもたちと話しながら、その日の子どもの様子を伺い、コミュニケーションをとれたことがよかった。 ・子ども会議では、子どもたちそれぞれの意外な面が見えて、子ども同士にも刺激になったようである。 ・朝や帰りの挨拶の際に、子どもの声の大きさ、表情などにも注視し、体調や気持ちの変調に気づけるよう気を配った。 ・遊びの中で、1人でいる子に声掛けをして、一緒に遊びながら他の友だちの輪に入っていけるよう配慮した。 ・言葉遣いは丁寧にするよう心掛けた。	こと ①「できるようになったこと」だけでなく、「自分から挑戦しようとした姿勢」も評価対象にする(結果より過程を認める) ②子ども会議で出た意見が実際にどう活動に反映されたかを振り返り、「子どもの意見が形になった実例」を記録に残す ③個人差への対応が、周りの子どもたちにも自然に受け止められているか(急かしたり比べたりする空気がないか)も評価に含める 1人遊びを好む子については、「輪に入れる」ことだけを目標にせず、1人の時間を尊重しつつ、無理のないタイミングを見極める視点も大切にするといいと思います。 丁寧な言葉遣いを、保育士自身のモデリングとして子どもに意識させるため、時々「今の言い方、素敵だったね」と子ども同士の丁寧な言葉も拾って褒めるとな子どもたちの心に刺さるように思います。
保護者との連携、信頼関係、子育て支援の強化 地域住民との相互理解	【保護者への情報発信・子育て相談・地域住民との相互理解】 ＜取り組み＞ ・園だより、クラス便り、保健だよりの発行 ・ホームページに、お知らせや行事、日常保育の様子を掲載 ・各クラスの動画配信 ・アプリを使った緊急メール配信、連絡案内のお便りページ ・分散参観、個人懇談 ・保護者からの電話相談 ・子育てに関する悩み、家庭での悩みを相談することのできるスクールカウンセリング ・保育士による子育て情報交換会、個人面談 ・未就園児教室、保育体験、園庭開放 ・地域の子どもたちの一時預かり ・行事前の近隣の方々への配慮、挨拶まわり、お知らせ、お礼 ・幼年消防クラブの「発会式」「花火指導」	【保護者への情報発信 評価 A】 ・普段の保育の様子や子どもたちの表情をカメラで写し、動画配信をして、家庭でゆっくり観てもらっている。 ・年度初めに子どもの写真、動画掲載の許可をしっかりと取り、配慮して進めている。 ・大事なこと、急ぎの伝達事項があればアプリで配信している。 ・懇談時には、家での様子、園での様子を伝え聞き、これからの保育に反映させていただいている。 【保護者の子育て相談・情報交換会 評価 A】 ・一か月に1、2回、専門のスクールカウンセラーの先生に来ていただき、希望の保護者との面談を行っている。 - また、各クラスを観て回っていただき、気になる子どもへの対応について、担任の相談に乗ってもらっている。 ・子育て支援担当の保育士も、保護者が気軽に面談で	【保護者への情報発信】 動画配信という手段を通じて、忙しい保護者にも「園でのわが子の表情」をリアルに届けている点はとても価値が高いと感じます。文字の連絡だけでは伝わらない安心感を、映像だからこそ届けられていると思います。また、年度初めに許可をきちんと取るという配慮も、個人情報・肖像権の観点から欠かせない大切な取り組みです。 保護者が「園の様子を知って安心する」だけでなく、「一緒に子育てをしている感覚」を持てる発信になっている点が素晴らしいと思います。 【保護者の子育て相談・情報交換会】

	・母の会役員会	きる場を作り、その子どものクラスに入ってしっかり状況を把握する。面談が終わると、保護者から聞いた話を共有できる範囲で、担任や全職員と共有し、子どものために役立てている。 【地域住民との相互理解 評価 A】 ・行事や工事等では、音や声で迷惑をかけることもあるので、前もって近隣にお手紙を配布して理解をいただいた。 ・運動会前の練習期間では、お手紙と粗品を配った。 ・隣接しているお宅の前の道は毎日清掃している。	専門のスクールカウンセラーによる面談と巡回、そして子育て支援担当保育士による面談という「二段構え」の体制がとても手厚いと感じます。特にカウンセラーが実際にクラスを見て担任に助言する仕組みは、相談を「話を聞くだけ」で終わらせず、日々の保育に直結させている点で評価 A に値する取り組みだと思います。 また、子育て支援担当が面談前にクラスに入って状況を把握したうえで保護者と話す流れは、保護者にとって「表面的な相談」ではなく「わが子をちゃんと見てくれている人との対話」という安心感につながります。 【地域住民との相互理解】 地域との関係を「トラブルが起きてから対応する」のではなく、事前のお手紙・粗品の配布や日常的な清掃という形で、日頃から丁寧に築いておられる姿勢が伝わってきます。特に隣接するお宅の前を毎日清掃するという小さな積み重ねは、直接の言葉以上に誠意が伝わる取り組みだと思います。
安全管理と施設設備の点検、補修,管理	・正門や、駐車場、その他の場所での防犯カメラの設置 ・毎月（火災・地震・不審者・J アラート、バス降ろし忘れ、園児引き渡しなど）の避難訓練の実施内容、回数によっては、無警告で実施 ・避難訓練後の報告書作り ・遊具施設や危険箇所を毎日確認 ・故障のすみやかな補修 ・災害危険、特別警報等の緊急時のマニュアルの確認 ・消毒清掃で傷んだ廊下、保育室の床の補修 ・保育室により、気温や日差しの調査をして、緩和する。 ・毎月環境の担当者が園内をチェックする。	【安全管理 評価 A】 ・インターホンが鳴ると、カメラをチェックして、来園者の確認をしている。来園者は玄関で対応している。 ・遊具のネジなど緩んでないか毎日点検し、園内外に不審物などないか、見回りをしている。 ・毎月、チェック報告書で、皆で共有している。 【避難訓練 評価 A】 ・毎月 1 回、地震・火災・不審者・J アラート・園児引き渡し・バスでの子どもの降ろし忘れなどの避難訓練を時間やパターンを変えて行っている。年に 2、3 回消防署、警察署の方に訓練を見ていただき、指導を仰いでいる。 ・訓練後は反省会をして、次回に生かせるよう見直し	【安全管理】 インターホン対応、遊具の日常点検、そして毎月の報告書での共有という三段階の仕組みが整っており、「気づいた人がその都度対応する」だけでなく「組織として継続的に管理する」体制になっている点が評価できます。特に遊具のネジなど、日々の小さな劣化を毎日チェックする積み重ねは、大きな事故を未然に防ぐ最も基本的で重要な取り組みだと思います。 【避難訓練】 毎月時間やパターンを変えて訓練

		や実践をしている。 【施設管理 評価 A】 園内外の施設で不具合の所があれば、担任や係の者が報告書を書き、管理者、職員で修理したり、業者の方に直してもらっている。	を行っている点、そして消防署・警察署という専門機関の目で客観的に評価してもらっている点は、避難訓練の質を非常に高いレベルで維持する取り組みだと感じます。「いつも同じ時間・同じ想定」ではなく、パターンを変えることで、子どもたちも保育士も本当の意味での対応力が身につきます。また、訓練後に必ず反省会を行い、次に活かす仕組みがあることで、訓練が形骸化せず、継続的に改善されているのが素晴らしい点です。 【施設管理】 不具合を発見した人が報告書として明文化し、園内で直せるものは自分たちで、専門的なものは業者に依頼するという判断の仕組みがあることで、対応の抜け漏れを防ぎ、記録としても残る点が良いと感じます。「気づいたら口頭で伝える」だけだと忘れられがちですが、報告書という形にすることで確実性が高まります。
子どもの健康と安全への配慮	・登降園時受け入れ時の視診チェック ・通園バスでの消毒の徹底 ・個人の成長記録（いろんな分野） ・内科・眼科・耳鼻科・歯科検診 ・身体測定、眼の検査、聴力測定、手洗い指導 歯ブラシ指導の実施 ・保育環境の日々の清掃、衛生管理、整理整頓 ・自園給食での栄養バランスの改善、アレルギーの細かい対応 ・窓、ドアを開けて、こまめな換気 ・感染症等が出た際には、園内の消毒を徹底し、感染拡大をふせぐ。 - 家庭でもできる消毒や処理の仕方を保護者と共有する。 ・夏は蚊取り線香を数か所おき、子どもたちには虫よけスプレーやミストをこまめに使う。 ・保育室や園庭で危険な場所を職員全員把握し、子どもの年齢と動線を考えた遊び方、どこでどのよ	【健康管理 評価 A】 ・朝、保育中、給食前やおやつ前、降園時や夕方に子どもの体調をしっかりと確認した。 ・定期検診以外にも、看護師に歯ブラシ指導、手洗い指導、聴力、視力検査、運動機能検査などを工夫して、子どもたちが集中できるよう検査してもらっている。 【衛生管理 評価 A】 ・保育室や廊下・階段・靴箱・玄関・トイレは、清潔できれいな場所として、気持ちよく過ごせるよう心掛けている。 ・トイレトレーニング中の子どもたちにとっても、爽やかな雰囲気で落ち着く場所であってはならない。 ・気持ちよく安心して遊べるように、園庭・遊具・施設内の清掃を毎日行っている。 【危機管理 評価 A】	【健康管理】 定期検診に加えて看護師による歯ブラシ・手洗い指導、聴力・視力・運動機能検査まで幅広く行っている点、そして「子どもが集中できるよう工夫している」という視点も評価できます。検査を「受けさせるもの」ではなく「子どもが取り組めるもの」にする工夫は、正確な結果を得るためにも、また子どもの成功体験としても重要です。 【衛生管理】 園全体の清潔さを「見た目のきれいさ」だけでなく、「気持ちよく過ごせる」「安心できる」という子どもの心理面まで意識されている点がとても丁寧だと感じます。特にトイレ

	うに見守るのか、どのような声掛けをどのタイミングでするのが効果的かを考え、実行する。 ・ヒヤリハットの報告と職員間の共有を必ず行い、どの部分で抜けがあるのかを改善していきながら、危機管理のスキルを高める。	・豪雨の時、通園路が浸水しないよう日頃から雨水用の溝や排水溝の砂などを定期的に取り除く掃除をした。 ・バスが到着したら、添乗の先生と一緒に子どもたちが降りて来るのを確認し、添乗の先生は降ろし忘れないかバス内を点検した。 ・駐車場や駐輪場での利用の仕方やルールを、園だよりやクラスだよりで小まめに声掛けをして、事故なく皆が安全に使用できるように協力をお願いしている。	レトレニング中の子どもにとって、トイレが清潔で落ち着く場所であることは、失敗への不安を減らし、意欲的に取り組める環境づくりに直結する重要な視点だと思います。 【危機管理】 豪雨対策として排水溝の清掃を「起きてから対応する」のではなく、日頃から行っている点、そしてバス降車時の「添乗の先生と保育士による二重確認」の仕組みは、置き去り事故など重大な事故を防ぐ基本かつ重要な取り組みだと感じます。近年の痛ましい事故を踏まえると、当たり前のようで非常に価値のある徹底だと思います。
--	---	--	---

今後の課題

まずは、もっともっと保護者同士でも挨拶が気軽にできる環境にしていきたいです。(クラス参観後の座談会で、お互いを知る・担任を知る・園を知るなど)子どもたちの挨拶も、まだまだできていない子が多いので、何とか自発性を強化させていきたい。皆で揃って言う場合は、上手に言えているのですが、子どもの特性を見ていたら、はにかみや、恥ずかしい、家でも、あまり話す機会がない…などの要因もあると思います。

何か、胸の壁を突き破ったら、声も出やすくなるのかもしれない。声を出せる雰囲気の場合(トークディスカッション)で和み、素直に自分の思っていることが言えるような、時の重ねをしていったら、少しでも良い方向にいくような気がします。

これからなんどきでも、自発的に声を出すことは、共通して大事なことです。みんなの心の内を知ることができたら、ちょっとした問題などに発展しないと思います。子どもたちの仲がよければ、保護者同士にも連動します。

まずはしっかり食べて、しっかり腹から声を出す態勢を作りたいです。

園長 三輪美貴子

今後の課題について (平田先生コメント)

保護者同士や子どもたちの挨拶を広げるためには、自然に関われる「きっかけづくり」と安心できる雰囲気が大切です。懇談会などで、簡単な自己紹介や共通点をつなぐ工夫を行い、関係の土台を育てていくのは、必要かつとても有意義なことですね。

子どもたちには、「みんなで挨拶する」から「先生(大人)や友達と一緒に挨拶する」、最終的に「ひとりでも挨拶する」と段階的に広がります。最初は、相手に笑顔を向ける、会釈する、手を振る・・・から一言でも良いので、相手に声をかけてみるという小さな1歩、小さな成功体験を積み重ねていくのはどうでしょうか。

日々の関わりの中で安心感を育み、小さな声でも表現できる環境を整えることで、自発性の向上につなげていきます

(署名捺印)

平田匡邦